

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970900334		
法人名	ウェルコンサル株式会社		
事業所名	フレンド生駒・菜の花Ⅰ・Ⅱ		
所在地	〒630-0263 奈良県生駒市中菜畑2丁目1117		
自己評価作成日	平成22年1月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kai_gosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク		
所在地	奈良県奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号		
訪問調査日	平成22年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

フレンドグループの”プロのいる家庭”というコンセプトの基に、”明るく 楽しく おいしい”生活を送っていただくよう、家庭的雰囲気を大切に、スタッフ一人ひとりがケアに努めています。グループホームが3ユニット、デイサービスも併設しているので、夏祭りやクリスマス会、ボランティアの方の催しなど交流する機会を多く持ち、潤いのある生活を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

私鉄の駅からほど近い住宅地にあり、社員寮であった建物を改築して、デイサービスと3ユニットのグループホームにしている。ハード面での制約を、逆にうまく活かして生活しやすいホームになっている。運営推進会議を、2ヶ月に1回開催し、積極的に地域にホームの理解が深まるように勤めている。食事は、旬の食材を大切にして、ユニットごとに利用者の好みを考え、別メニューでつくっている。居室は、畳の部屋にベッドが置かれ、とても落ち着いた空間になっている。家族が面会に来て、居室でゆっくりくつろぐことができる。オムツを使用しない介護にも取り組んでいる。管理者の温かい人柄と職員の明るさが、和やかな家庭的な雰囲気をつくり出しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は以下の通りである。①自分らしい安心できる生活をお手伝いします。②入居者の尊厳を守ります。③地域との連携に努めます。運営理念を玄関に貼り出しスタッフが常に意識できるよう取り組んでいます。	「利用者の尊厳を守り、地域との連携をはかる」というフレンド全体の理念の他に、「明るく楽しくおいしい時間をすごさせていただけるようケアを提供させていただく」という当事業所独自の年間目標が設定されており、職員間で共有されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治総会やクリーンキャンペーン等にも積極的に参加している。また、散歩時も挨拶を忘れず気軽に話せるお付き合いをしている。	自治会に加入し、自治会のクリーンキャンペーンなどに、利用者と共に参加している。近くの神社のお祭りに行ったり、事業所の夏祭りの案内を地域に出したりしている。	事業所のすぐ近くには学校がないとのことであるが、校区内の学校との交流などもできたらさらに良いと思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターの方と地域の方に向けた講習会を予定しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を概ね2ヶ月に1回開催し、そこで出た意見や要望をケア会議で話し合っている。	昨年度に比べ回数を増やし、概ね2ヶ月に1回開催している。事業所からの報告だけでなく、家族の思いや、地域が抱える高齢者問題、災害時の支援などについて話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生駒市にはグループホームの現況を報告したり、指導をもらったりしている。	運営推進会議の議事録や「フレンドたより」を市役所に持参して事業所の報告をしたり、厚生労働省の視察を受け入れるなど、市役所と緊密な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は外部研修を通じて学び、その内容を職員に説明・教育している。	昼間は、入り口の鍵はかけられていない。身体拘束に関しては、管理者が外部研修で学び、絶対にしないという理念の基に職員間で確認をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は外部研修を通じて学び、その内容を職員に説明・教育している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は外部研修を通じて学び、その内容を職員に説明・教育している。成年後見制度利用者1名おられます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、利用契約書等を文書で示し説明している。説明に当たっては一方的にならないように、理解いただけたか、疑問点はないかを確認しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者及び職員は利用者との日頃の対応、会話を通じて、苦情・不満等を汲み取るように努めている。それらをスタッフ会議でオープンにし、利用者の思いに応えるようにしている。外部へ表せるルートはほとんどが家族であることから、家族の声にも真摯に取り組んでいる。	まず利用者や家族との信頼関係づくりを大切にし、意見をもらえる雰囲気づくりをしている。定期的なカンファレンスを行っている。また、重要事項説明書に、苦情受付窓口を記載すると共に、本社から家族に無記名アンケートを実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人代表者は管理者、ユニットリーダーの意見を聞き、最終判断している。	管理者は、日頃の活動の中で言いやすい雰囲気づくりをし、職員と意見交換をよく行っている。また、法人代表者は、各事業所をまわり、法人の考えを伝えると共に、意見や要望をよく聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と幹部従業員等が参加する会議を月に1回設けており、現場の状況を細かく連絡・報告・説明を行っており、職場環境等の不具合の発生には早急な対応を図れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、中段階研修、サブリーダー研修、リーダー研修を順次行っている。また、認知症介護実践研修、管理者研修、リーダー研修等を計画的に受けさせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者はグループホーム運営協議会を立ち上げ、情報交換、勉強会の場を設定している。加えて、市内のグループホーム担当者交流会を持ちたいと思い、現在働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に関しての問い合わせがあったときや、初期面談時には利用勧誘を前面に推し進めるのではなく、本人の困っていること、不安なことをよく聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に関しての問い合わせがあったときや、初期面談時には利用勧誘を前面に推し進めるのではなく、本人の困っていること、不安なことをよく聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所に相談がある時はほとんどがグループホーム利用が前提であるが、本当にグループホームでよいのか1歩引いて観るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、洗濯物の片付けを助けてもらったり、料理の味付けを教えていただいたりと暮らしにハリを持っていただけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の連絡はもとより、1ヶ月に1回はスタッフからの一言通信(様子をまとめたもの)、写真、フレンド便りを送付し、関係維持・向上に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年末・年始やお盆に家族と過ごす希望者には薬や健康状態を説明し、支援している。また、お友達の訪問やお便りをもらっている。	地域密着型サービスとなって、利用者の多くが市内から入居している。外泊や日帰りなどで、家に帰ることもある。また、家族や友人が訪問しやすい雰囲気づくりをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題で会話出来る様に内容を工夫したり、入居者同士のコミュニケーションを大切にしている。不意な立ち上がりなど危険を察知したとき職員に知らせてもらったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院が見込まれ、退去された方がいるが、定期的に見舞いに伺った事例がある。特養など他の施設に移られた場合もお顔を見に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向に沿った過ごし方をしてもらっている。強制したり全員同じようにということはしていない。	契約時には、家庭訪問をし本人や家族の意向、生活歴などの把握に努めている。入居後は、日頃の活動の中やカンファレンスを通して以降の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活史などを把握するシートを作成し、アセスメントに活用している。また、ご家族からも昔の話やエピソード等を聞き、ケアに反映出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々の方の過ごし方や心身状態を職員が把握し、連絡を取り合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からの入居者の意見を聞き、家族カンファレンスを行っている。それらに加えて職員が意見やアイデアを出し合って介護計画を作成している。	毎日の活動の中で情報交換を行い、月1回の職員会議でカンファレンスを行っている。それをもとに3ヶ月に1回ケアプランの評価をし、次のプランに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、日常の暮らしの様子やバイタル値、排泄状況、食事量、往診時の看護記録などを記録している。日常の変化、気づきを個別ケアに反映できるよう、ケア会議にて検討を繰り返している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスの利用者からなれた環境に入居したいとグループホームに希望される方もいる。また、医療面では法人代表者の親族が訪問看護にあたり、ターミナル迄入居者を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署から避難訓練指導に来てもらったり、地域の方にボランティアレクに来てもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	精神科、眼科と等の受診が必要になった場合も家族に連絡を取り、希望があれば受診するようにしている。	2週間に1回、かかりつけ医の往診がある。歯科医の往診もある。通院が必要なとき、家族の付き添いがなければ、職員が行くことにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	救急医療経験のあるベテラン看護師が社員にいますので、週に2回は全入居者の健康管理を行い変化のある時には医師に連絡を入れ職員の指導にもあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族を交えてホームの往診医や看護師が病院の担当者と現況や予後を話し合い早期の退院を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を策定し、重度化・終末期に入る前には往診医、看護師、職員がご家族とカンファレンスを行い方針を決めている。在宅診療をとっているので医師は24時間対応している。また、地域運営推進会議の席でも都度現状報告をし、地域の理解を得よう努めている。	ターミナルケアについては、ユニットごとに研修を行っている。家族の思いを中心に、医師ともよく相談をし、ユニットの力量も考慮して受け入れることにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、職員に周知徹底している。看護師による応急手当の指導を全職員が受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練計画を策定し、定期的に訓練を行っている。近隣の方には非常時の応援をお願いできるように申し入れている。	年2回避難訓練が行われ、1回は消防署も立ち会ってもらっている。夜間想定訓練も行っている。運営推進会議でも、災害対策が話し合われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人の個性、人格を尊重した言葉かけ、対応をし、入居者に共感するように努めている。	居室に入るときには、必ず声掛けをしている。入浴のときには、なるべく同性介助を行っている。個人のプライバシーの保護について、気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の選択、献立の希望やレクリエーション内容、外出の希望等を聞きながら進めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務時間は後で取り戻せるとの共通認識から入居者優先として入居者ペースに合わせている。入居者個々のライフスタイルで過ごしてもらえるよう、自室でおられる時間帯は部屋の外から見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の希望による髪型や服装にしているが、いつも同じにならないように声かけし、支援している。パーマだけでなく、日々の散髪も近所の理髪店に出かけていき、社会とのつながりの一つとしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は入居者の好みに合うもの、希望のあるものになっている。季節感も重視し、また、昔ながらの行事色のある食事内容や、個人の誕生日祝いの食事もしている。食事の準備や片付けも職員と一緒にしてもらっている。	利用者の好みも考え旬のものを大切にして、ユニットごとに違うメニューでつくられている。できる人は、一緒に準備や片づけをしている。職員も同じものを食べている。お誕生日会や外食も楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取カロリー、水分量、栄養バランスをおおよそ把握している。食べ残された為に不足の場合は、代替りのもので補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨誘導を行っている。痛みや治療が必要な場合には家族に連絡をとって、受診の支援をしている。入歯は夜間消毒液に浸けてほかんしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄表を作り、昼夜のトイレ誘導を行っている。出来るだけトイレでの排泄を促している。トイレ誘導・介助はさりげなく行っている。特に失禁時には周囲の方にも気を配り声を出しての促しは避け、さりげなく誘導している。	排泄パターンを把握し、トイレ誘導して、要介護度の高い人も含め全員オムツをつけないケアに取り組んでいる。夜間もトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい入居者が多いので、果物、野菜の多い食事提供を心がけている。定時にトイレ誘導している。散歩や体操を毎日している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間、回数の希望を聞き、ゆっくり入浴していただけるようにしている。入浴は1名ずつ行い、同姓の介護者が介助することになっている。入浴中は脱衣所と浴室の戸を閉め、プライバシーに配慮している。	基本的に夕食前に、週3回は入浴できるようにしている。同性介助を行って、リラックスして入ってもらえるように気をつけている。入浴拒否される方にも、入ってもらえるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩、掃除、食事作り、体操、レクリエーションなど日中の活動を通して、個々にあった生活のリズムを作るように配慮している。必要なときには職員が個室に付き添い、ゆっくりと放しながら休息してもらう。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容の勉強をしている。薬剤師や家族から説明を受けた内容を個別に記録し、医師の指示通りに服薬してもらうようにしている。症状の変化があれば記録し、医師にも伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯や取り入れ、食事の手伝い、買い物等は能力に応じて役割分担している。裁縫の好きな人、手作業の好きな人に材料を用意し、応援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩やスーパーへの買い物、及び季節に応じてピクニック、食事会、音楽会を催し参加してもらっている。また、自治会の催しや掃除にも職員と共に参加している。	寒い時期には出にくくなるが、利用者の体調なども考慮し、交代で散歩や買物などで出かけるようにしている。花見や外食、音楽会などでも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金を所持している人には、支払いの時には職員がお手伝いを一緒に管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を×希望には呼出しをして受話器を手渡している。かかってきた場合は受話器を手渡してゆっくり話してもらっている。季節の便り、行事の案内状を皆で手作りして家族に郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的なリビングで、自由に過ごせるようソファ、椅子、を置いて場所を確保してあり、気のあった方々で楽しく過ごされている。また、四季折々の花飾りをし、装飾品も手作りしている。家具備品は全て家庭用で揃えている。	居間には、テーブルとソファがあり、家庭的な装飾品や季節の花が飾られている。廊下は、蛍光灯を大きくし、以前より明るくしている。トイレも使いやすい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家庭的なリビングで気のあった方々で楽しく過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込まれ、装飾も各自お好きなようにされている。	畳の部屋にベッドが置かれ、押入れがあっても落ち着いた家庭的な雰囲気がある。使い慣れたベッドや飾り棚、椅子、趣味のものなどが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に手すりを付け、フロアは全てバリアフリーにしている。各居室、トイレ、浴室等ドアに絵入りや大きな文字にて表札を掲げている。		